

浄光寺仏教婦人会だより

まなざし

2008年9月30日発行

【目次】

- 2~3 正信偶和讃・随筆
- 4~5 子供合宿
- 6~7 仏婦活動・読者のページ
- 8 お知らせ



八月三日(日)「浄光寺夏の集い」をしました
子供たちもみんなで歌を歌いました

山里秋景

色づいてきた木々。優しく澄んだ空気。今年も実りの秋が訪れました。豊かな稲穂はもう収穫を終え、田は切り株を残して、まるで静かに安らんでいるかのようです。種から芽を出し、あめかぜや照りつける日差しを受けながら、しっかりと根を張り葉を茂らせて、いのちの限りを燃やして迎えた実りの時。たくさんのご縁を受けて広がり成長し、また還っていくのはひと粒の種の世界。つぎの役目に備え、たくわえた養分をかかえて、ゆっくり休眠の季節にはいります。稲の一生。人の一生。如何にいのちを實らせ次の世代に託していくのか。老いは人生の秋、いのちの集大成なのでしょう。



季節の花がこれほどうつくしいことに歳を取るまで少しも気づかなかった美しく老いてゆくことがどれ程に難しいかということさえ気づかなかった

もしももう一度だけ若さをくねると言われても
おそらく 私はそっと断るだろう
若き日のときめきや迷いをもつ一度
繰り返すなんてそれはもう望むものではない
それが人生の秘密
それが人生の贈り物

「人生の贈り物」 他に望むものはない
(七だまさし)

今月の言葉 (解説は3ページにあります。)

「自然」といふは、もとよりしからしむるといふことばなり。この如来の御ちかいなるがゆえにしからしむるを「法爾」といふなり。親鸞聖人ご消息

おしらせ

「インド・ネパール仏跡巡拝」

2009年2月25日から10日間の予定で~カトマンズ本願寺参拝と釈尊の六大聖地を訪ねて~海外研修旅行を計画しています。この機会に仏教の原点に触れてみませんか? 詳しいことはお寺までお問い合わせください。

「夏のつどい」収支報告

8月3日に行われた「夏のつどい」の、仏婦出店等収支報告をいたします。ご協力ありがとうございました。お疲れ様でした。

収入	289,508
支出	207,002
差引残高	82,506

連載小説

『親鸞』

山陰中央新報等で、この秋連載がスタートした、五木寛之さんの長編小説「親鸞」を読んでおられますか? 五木寛之さんはこの小説を書くにあたり、主人公が親鸞であることで、不安とプレッシャーがあったそうです。読者にはわかりやすく、楽しみに待っていただけのように面白い作品にしたいと語っておられます。ぜひ、お読みください。

お野菜をお持ちよりください

報恩講のおときで使うお野菜をお願いします。少しでもかまいませんのでご協力ください。



今後の行事予定

- 九月二十二日(月)・二十三日(火) 秋彼岸会 浄光寺 六日市 朋澤真教先生
- 九月二十二日(火)午後一時 秋彼岸会 都野津説教場
- 九月二十七日(土) 福屋組門信徒研修会 林蔵寺
- 九月三十日(火)午前十時 都野津地区例会 都野津説教場
- 九月三十日(火)午前十時 都野津地区例会 都野津説教場
- 九月三十日(火)午前十時 都野津地区例会 都野津説教場
- 十月二日(木)・三日(金) 本願寺念仏奉仕団(23回)
- 十月九日(木) 中四国仏教婦人大会 山口きらら博記念公園
- 十一月十九日(水)・二十日・二十一日 報恩講 滋賀 寺沢 忍先生
- 十二月十五日(月) すす払い例会
- 十二月三十一日(水) 除夜会
- 来年二月予定 千田地区例会 佐々木久子さん宅



編集後記

夜、新聞編集を終え、お寺の山門を出るとちよつと明るい。「月夜だね。いいよねえ...」と、夜空を見上げる。秋になると空気が澄んで月がきれいに見えます。月を見て、かぐや姫のお話やうさぎがいるなんて想像するのも日本人だけでしょね。先日、坊守様に月に関する、いいお話を聞きました。日本では月の満ち欠けで暦を考えたり、月は生活の中に密着していました。また日本人には風流という心があります。月にいるいる名前をつけて味わっています。例えば、「十五夜」というのは陰暦の十五日の月のこと。別名「中秋の名月」ともいいます。他に「十三夜月」「十六夜月」というのは知っていますが、日が沈んで立って待っている間に昇ってくるのが「立待月」。「居待月」は座って待つ。「寝待月」は昇ってくる時間が遅いから寝ながら待つ。皆さん知っていましたか? そんなことを考えながらの月見もおもしろいですね。月は人間のあこがれです。今、あの月に日本は宇宙ステーションを建設中です! さて、今夜は見えるかしら?